

素直な投資

第一生命経済研究所 顧問 大森 泰人



ベトナム最後の王家の霊廟を回りながら、日本で学んだ若いガイドは鮮やかな日本語で解説する。「王朝を立てる際に対抗勢力を抑えようとフランスに頼ったので、つけ込まれてしまいました」。「でも徳川幕府だって薩長を抑えようとフランスに頼ったら、薩長はイギリスに頼って対抗した。ベトナムには有力な対抗勢力が残らなかったのかな?」と私。「それもあるけど結局、うかつに支配しようとしたら痛い目に遭うと思わせる国力と民度を日本が備えていたのでしょうね。われわれにはなかった」。「でも第二次大戦後は、うかつにフランスの後釜に座ろうとしたアメリカを痛い目に遭わせる国力と民度を備えたじゃない」。「それはそうですが、社会主義が余計でした。能力に応じて働き必要に応じて受け取るのは、人間を動かす原理になりません。市場原理をコネと賄賂が補う変な国になってしまいました」。初対面の旅人にかくも素直に語るの、あまり言論の締めつけが厳しくないのかもしれない。「どうして日本人向けの旅行会社を始めたの?」と話題を変えてみる。「日本語を活かしたいからですが、もっと大きなビジネスもしたいです。幸いウチの日本のお客様は教養と資産があるリピーターが多くて、王家の霊廟も1度にせいぜい2箇所ほど回ってそれぞれの時代をゆったり偲びます。リピートして親しくなるとビジネスのヒントをもらえて勉強になります」。やれやれ、私みたいに1度になるべくたくさん回りたい貧乏性の旅人は、彼のメガネにかないそうにないと思う。霊廟を移動中のひなびた田園地帯で車窓から「Dai-ichi Life」の営業所を見かけ、「ほう、こんなところにも」とつぶやくと、彼は機敏に反応する。「地元の銀行と提携して日本の保険を売ってもらう新聞記事を見ました」。やれやれ、日本でのビジネ

スモデルをベトナムでも実行しているのをベトナム人に教わるようでは、第一生命グループの一員として及第点はもらえそうにないと思う。

「最近のベトナムの若者は」と今度は彼のほうから話題を変えた。「金融界に就職しがります。前は公務員が一番人気でしたが、金融で経済成長を支えたいんです。もっとも銀行なら、有望な融資先を見つけないとすぐクビですが」。「やっぱり市場競争とコネと賄賂が錯綜しているのかねえ」。「はい。おかげで預金金利は1割近く、金持ちは預けるだけでますます金持ちになりどこが社会主義かと思います。外国人は預金口座を持てませんけど」。そこでふと、ビジネスのヒントらしきものを思いつく。「じゃあ日本の旅人から円を預かってドンに替え御社名義で銀行預金したら?」、「え?大丈夫ですかね?」、「ベトナム法の解釈は知らないけど、日本では第2種のファンド登録(第二種金融商品取引業登録)をすれば海外投資資金は集められる。為替レートが安定していれば有利な運用だし、ドンが下がればリピーターとしてベトナムで使ってもらえばいいだろう」、「ファンド登録って難しいのでは?」、「さほど難しくない。最近トルコリラが暴落して大損する日本人投資家が大勢いたけど、遠いトルコに比べれば、ベトナムは出かけて使う気になるんじゃないかな」。無縁な国の通貨や金利に連動する複雑な投資商品を勧められるまま買うよりは、ベトナム好きがベトナムの経済成長に期待して、当てが外れたら出かけて使う素直な投資があって良さそうに思える。「検討してメールします」と彼の目がにわかに輝いた。この選択肢に落とし穴がなければ良いけれど、と思いながら検討結果をゆったり待っている。